

2022年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年7月15日

上場会社名 株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス

上場取引所 東

コード番号 2927 URL https://www.ams-life.co.jp/

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 浅山 雄彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役会長室長 (氏名) 南方 茂穂

TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 2022年7月15日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年8月期第3四半期の連結業績(2021年9月1日~2022年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第3四半期	16,692	-	682	-	987	-	535	-
2021年8月期第3四半期	14,495	-	1,916	-	1,907	-	1,359	-

(注1) 包括利益 2022年8月期第3四半期 562百万円(-%) 2021年8月期第3四半期 1,402百万円(-%)

(注2) 今期より、新収益認識基準を適用しております。

売上高及び利益面において影響が生じるため、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

なお、従来の会計基準の場合の売上高は、24,059百万円(対前年同四半期比166.0%)であります。

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2022年8月期第3四半期	38.12		37.93	
2021年8月期第3四半期	97.89		97.38	

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第3四半期	36,634		12,180		33.2	
2021年8月期	35,752		12,660		33.1	

(参考) 自己資本 2022年8月期第3四半期 12,150百万円 2021年8月期 11,827百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2021年8月期	-	12.50	-	15.00	27.50	
2022年8月期	-	15.00	-			
2022年8月期(予想)				15.00	30.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2022年8月期の連結業績予想(2021年9月1日~2022年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり当期 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	22,500	-	1,000	-	1,300	-	650	-	46.32	

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

(注2) 今期より、新収益認識基準を適用しております。

売上高及び利益面において影響が生じるため、対前期増減率は記載しておりません。

※注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ①会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
 - ②①以外の会計方針の変更：無
 - ③会計上の見積りの変更：無
 - ④修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年8月期3Q	14,387,699株	2021年8月期	14,387,699株
② 期末自己株式数	2022年8月期3Q	355,594株	2021年8月期	196,594株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年8月期3Q	14,057,843株	2021年8月期3Q	13,884,199株

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、新業態への進出による経営の多角化と自社グループ内に様々な業態を持つことにより、自社グループ内で全てを完結する複合企業体を目指しております。昨年5月26日に株式会社さいか屋を、昨年6月1日に株式会社なすびを連結子会社化いたしました。また、昨年3月30日に株式会社エーエフシー不動産を、昨年10月1日に株式会社AFC建設を新設いたしました。

業績につきましては、連結子会社が増加したことに加え、医薬品事業の売上高が前年同期を上回る結果となり、連結売上高は16,692百万円となりました。損益面につきましては、新たに加わった連結子会社の業績が新型コロナウイルス感染症による影響を受けており、営業利益は682百万円、まん延防止等重点措置に関わる営業時間の短縮要請協力金及び雇用調整助成金などの営業外収益を加え、経常利益は987百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は535百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(ヘルスケア事業)

・OEM部門

機能性を表示できるダイエット関連製品や骨・筋肉・関節ケア製品の受注が堅調に推移いたしました。また、在宅時間増加によるテレビ視聴機会の増加等が影響し、テレビ通販向け製品が好調を維持いたしました。学術部門と連携を取り、機能性表示食品の届出支援を含む提案営業、製品開発を強化してまいります。

・自社製品販売部門

店舗販売は、3月のまん延防止等重点措置解除後、催事や相談会等の実施数増加による増収など回復基調で推移いたしました。海外販売は、新型コロナウイルス感染拡大の影響があるものの、既存顧客における美容商材の受注が好調を維持いたしました。イスラム圏での売上拡大を図るため、ハラール認証取得の準備を進めております。通信販売は、越境ECでの受注が増加したことに加え、原価の見直しや高粗利製品への注力により粗利率が改善いたしました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高11,190百万円、営業利益1,438百万円となりました。

(医薬品事業)

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品につきましては、重点販売製品として位置付けている自社製造、医療用ジェネリック医薬品『ピムロ顆粒』（下剤）、生活習慣改善薬のジェネリック医薬品『シルデナフィル錠』『フィナステリド錠』『タダラフィル錠』が順調に売上を伸ばしたほか、一般用医薬品のOEM受注が増加した影響が加わり、利益面において安定的に黒字が出せる体制となりました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高が1,315百万円（前年同期比114.6%）、営業利益127百万円（前年同期比135.9%）となりました。

(百貨店事業)

当期より、㈱さいか屋（証券コード：8254）の第3四半期累計売上高3,520百万円を取り込んでおります。従来の会計基準では10,893百万円（前年同期比91.95%）に相当します。

昨年5月26日、㈱さいか屋株式の過半数（議決権の所有割合50.36%）を取得し連結子会社化いたしました。昨年10月20日、横須賀店にカラオケ・ダーツ・e-スポーツのフロア「娯楽の殿堂さいか屋eSTAGE」、美と健康ショップ「サロン・ド・AFC」を新規オープンいたしました。続いて、3月9日、藤沢店に買取専門店「買取サロン」を新規オープンし、お客様に喜ばれる百貨店になるよう積極的に先行投資を続けております。経費面では、借入金支払利息、商品券支払保証料、役員人件費の削減を実施いたしました。また、支払家賃の削減、歩率の改善に努めております。

以上の結果、百貨店事業の業績は、売上高が3,520百万円、営業損失129百万円となりました。

(飲食事業)

昨年6月1日、㈱なすび株式100%を取得し連結子会社化いたしました。10月4日に近江牛焼肉レストラン「すだく」、10月26日に回転寿司店「一富士丸」、11月10日にベーカリーカフェ「GALLEY(ギャレイ)」を新規出店し、先行投資を行っております。ケータリング事業「なすび庵」が順調に推移いたしました。まん延防止等重点措置解除後、徐々に来客数が戻り始めております。商品開発の強化、既存ブランドの再構築及びアルコール業態から食事に重点をおいたメニュー編成など事業モデルの再構築を進めてまいります。

以上の結果、飲食事業の業績は、売上高が633百万円、営業損失298百万円となりましたが、営業外収益として、まん延防止等重点措置に関わる営業時間の短縮要請協力金及び雇用調整助成金などがあり、経常利益はプラスとなりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ393百万円増加し、16,245百万円となりました。この増加要因は主として、原材料及び貯蔵品が121百万円、商品及び製品が96百万円減少した反面、流動資産のその他が342百万円、受取手形及び売掛金が234百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ488百万円増加し、20,388百万円となりました。この増加要因は主として、減価償却等により有形固定資産が49百万円減少、のれんの償却等により無形固定資産が147百万円減少した反面、投資その他の資産が685百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ886百万円増加し、12,689百万円となりました。この増加要因は主として、商品回収損失引当金が633百万円、未払法人税等が590百万円、商品券が555百万円、流動負債のその他が498百万円減少した反面、短期借入金が1,585百万円、契約負債が1,410百万円、支払手形及び買掛金が170百万円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ476百万円増加し、11,765百万円となりました。この増加要因は主として、長期借入金が482百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ480百万円減少し、12,180百万円となりました。この減少要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が282百万円増加した反面、株式会社横浜銀行から当社連結子会社である株式会社さいか屋が発行したA種優先株式の全部を取得したこと等により、非支配株主持分が740百万円減少したことによるものであります。なお、このA種優先株式(発行価額741百万円)を533百万円で取得しており、差額の208百万円については、資本剰余金が増加しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年4月14日の「2022年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」及び「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,222,136	9,220,265
受取手形及び売掛金	2,244,682	2,479,132
商品及び製品	1,637,968	1,541,092
仕掛品	853,393	852,962
原材料及び貯蔵品	1,360,068	1,238,117
その他	594,534	936,933
貸倒引当金	△60,386	△22,740
流動資産合計	15,852,396	16,245,763
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,634,576	5,346,684
土地	9,333,625	9,550,193
その他（純額）	1,043,449	1,065,703
有形固定資産合計	16,011,651	15,962,581
無形固定資産		
のれん	1,491,664	1,376,920
その他	160,964	127,787
無形固定資産合計	1,652,628	1,504,708
投資その他の資産		
その他	2,255,121	2,979,746
貸倒引当金	△19,395	△58,049
投資その他の資産合計	2,235,726	2,921,697
固定資産合計	19,900,007	20,388,987
資産合計	35,752,403	36,634,750
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,966,799	3,136,808
短期借入金	4,989,624	6,574,683
未払法人税等	646,464	55,479
商品券	555,410	—
賞与引当金	196,726	259,755
商品券回収損失引当金	633,609	—
ポイント引当金	63,235	—
契約負債	—	1,410,205
その他	1,750,422	1,252,180
流動負債合計	11,802,291	12,689,113
固定負債		
長期借入金	9,691,252	10,173,706
役員退職慰労引当金	201,449	222,333
退職給付に係る負債	773,571	804,604
その他	622,922	564,599
固定負債合計	11,289,195	11,765,243
負債合計	23,091,486	24,454,356

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,438,494	2,618,462
利益剰余金	7,420,777	7,703,663
自己株式	△141,364	△307,967
株主資本合計	11,849,746	12,145,998
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△46,937	△31,766
為替換算調整勘定	7,701	20,866
退職給付に係る調整累計額	16,855	15,454
その他の包括利益累計額合計	△22,380	4,554
新株予約権	90,138	26,560
非支配株主持分	743,413	3,280
純資産合計	12,660,917	12,180,393
負債純資産合計	35,752,403	36,634,750

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)
売上高	14,495,207	16,692,468
売上原価	9,829,899	10,379,617
売上総利益	4,665,307	6,312,850
販売費及び一般管理費	2,748,360	5,629,929
営業利益	1,916,947	682,920
営業外収益		
受取利息	2,557	2,914
受取配当金	7,187	7,045
投資有価証券売却益	8,511	9,593
受取賃貸料	15,716	29,991
負ののれん償却額	422	—
役員退職慰労引当金戻入額	10,810	—
助成金収入	2,312	318,534
その他	6,012	14,397
営業外収益合計	53,530	382,475
営業外費用		
支払利息	23,111	44,154
投資有価証券売却損	13,439	5,113
賃貸費用	10,668	17,817
その他	15,944	10,550
営業外費用合計	63,163	77,636
経常利益	1,907,314	987,760
特別利益		
固定資産売却益	—	285
特別利益合計	—	285
特別損失		
固定資産売却損	—	61
固定資産除却損	3,242	70,615
投資有価証券評価損	—	307
減損損失	365	—
役員退職慰労金	—	8,346
その他	—	6,415
特別損失合計	3,607	85,745
税金等調整前四半期純利益	1,903,706	902,300
法人税、住民税及び事業税	610,270	363,098
法人税等調整額	△65,709	3,936
法人税等合計	544,560	367,035
四半期純利益	1,359,146	535,264
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△614
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,359,146	535,879

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)
四半期純利益	1,359,146	535,264
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33,628	15,171
為替換算調整勘定	10,897	13,164
退職給付に係る調整額	△1,367	△1,400
その他の包括利益合計	43,158	26,934
四半期包括利益	1,402,305	562,199
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,402,305	562,814
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△614

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	13,347,103	1,148,103	14,495,207
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	13,347,103	1,148,103	14,495,207
セグメント利益	2,293,231	93,788	2,387,020

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	2,387,020
全社費用(注)	△470,072
四半期連結損益計算書の営業利益	1,916,947

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

株式会社さいか屋の株式を取得し、同社及び同社の連結子会社2社を連結の範囲に含めたことに伴い、新たなセグメントである「百貨店事業」において、セグメント資産が11,504,946千円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社さいか屋の株式を取得し、同社及び同社の連結子会社2社を連結の範囲に含めたことに伴い、新たなセグメントである「百貨店事業」においてのれんを認識しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は914,115千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	ヘルスケア 事業	医薬品事業	百貨店事業	飲食事業	その他事業	
売上高						
外部顧客への売上高	11,190,203	1,315,256	3,520,752	633,780	32,475	16,692,468
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	11,190,203	1,315,256	3,520,752	633,780	32,475	16,692,468
セグメント利益又は損失(△)	1,438,694	127,502	△129,111	△298,647	△13,555	1,124,881

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,124,881
全社費用(注)	△441,961
四半期連結損益計算書の営業利益	682,920

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理の方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べ、当第3四半期連結累計期間の「ヘルスケア事業」の売上高及びセグメント利益は4百万円増加し、「百貨店事業」の売上高は7,372百万円の減少、セグメント損失は8百万円減少しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。